

# 日本文藝學論究

## 第七十一冊

### 目次

シンポジウム 特集 異類・変化・怪奇との共生 ——我々だけではない此世——	豊島 秀範 (2)
シンポジウムによせて……………	伊藤 慎吾 (5)
異類・変化・擬人化キャラクターの造型……………	花部 英雄 (14)
——お伽草子の時代から——	
昔話における異類……………	
スベンサー・コレクション所蔵	
『百鬼夜行絵巻』について……………	辻 英子 (22)
人麻呂歌集七夕歌の使者……………	加藤千絵美 (32)
嗅覚の「なつかし」……………	吉海 直人 (41)
——『源氏物語』空蟬の例を起点として——	
夜居僧都の密奏における「罪」……………	大川 幸穂 (51)
『源氏物語』「鴛鴦のうきね」の歌について……………	太田美知子 (61)
——かけの行方——	
山家の心中と折敷のふち……………	荒木 優也 (70)
——『山家心中集』巻末の構成について——	
『義経記』巻七と『源平盛衰記』……………	伊藤 悦子 (82)
——北陸記事における共通性について——	
童言葉と黄表紙……………	中村 正明 (92)
——「焼いた牛蒡をおつつける」ほか——	
福田恆存「一匹と九十九匹と」論……………	長谷川雅美 (105)
——〈絶対肯定〉の宣言——	
國文學會通信……………	
彙報……………	
編集後記……………	